

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 6月 2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200445		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホームほのぼの苑五日市八幡		
所在地	広島市佐伯区八幡5丁目16-10 (電話) 082-927-8400		
自己評価作成日	平成26年4月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成26年4月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ほのぼの苑という「わが家」で、利用者様同士お互いに譲り合い、認め合いながら笑顔を絶やさず安心して暮らせるように、職員はやさしい介護に努めています。又、地域の方々の協力を頂き、楽しく行事に参加させて頂いております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームほのぼの苑五日市八幡（以下、ホーム）は、広い庭とリビングがあり、採光や風通しのよい居室、車椅子がスムーズに移動できる廊下など、暮らしやすい環境が整えられています。職員は、入居者がホームを我が家として暮らせるよう、一人ひとりの生活歴を大切に寄り添う支援を実践し、ホーム全体がほのぼのとした雰囲気になるよう努められています。地域密着型サービス事業所としての意識を強く持ち、町内会役員の協力を得ながら、地域住民との交流を徐々に広げておられます。運営推進会議では、介護保険制度について知りたいという意見が出され、会議の場で勉強会の実施を計画されています。また、職員の意見や提案を運営に反映できるよう法人全体で環境を整え、入居者主体のケアに取り組む努力をされています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(東ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時の研修で職員全員で作った理念を、毎朝朝礼で唱和し、常に意識し、日々の介護にあたっている。	法人の企業理念を基本に、ホーム独自の理念を掲げておられます。理念の実践に向けて、まず職員自らが笑顔で支援に取り組むことを大切にされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して、職員と利用者がともに町内清掃に参加したり、相互の行事(保育園の運動会・町内の祭り・ぜんざい大会等)に積極的に参加しながら交流を図っている。	地域行事の参加や役割などの協力をしながら、ホームとしてできることを手伝われています。町内会役員の協力を得ながら、地域との交流を深められるよう努力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	インターンシップの受け入れを行い、又運営推進会議には勉強会をもうけ地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域の方やご家族から活発な意見が出され、地域行事への積極的参加や施設サービス向上に活かしている。	会議には、区行政職員、地域包括支援センター職員、町内会役員、地域住民、家族、入居者が参加されています。介護保険制度について知りたいという意見が出され、会議の場で勉強会の実施を計画されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者に運営推進会議の報告をし、協力関係を密にできるよう取り組んでいる。	区行政担当課へ状況報告や相談に出向き、直接アドバイスや説明を受けておられます。ホーム主催の介護保険制度についての勉強会には、地域包括支援センターの協力を得て実施を予定されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い、拘束行為が人権侵害にあたることを職員に周知している。又、毎月「虐待の芽チェックシート」を活用し、職員全員が日々のケアを振り返っている。玄関の施錠については、ヒヤリハットの事案があったため、入居者様の安全を考慮し、やむを得ず施錠している。中庭への扉については開放し、自由に出入して頂いている。	認知症を理解したうえで、身体拘束をしないケアについて定期的に研修を実施されています。やむを得ず玄関の鍵は施錠されていますが、入居者の様子を見守りながら、外に出たいという思いや気分転換ができるよう支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が精神的に安定した状態で業務が遂行できるよう労働環境に配慮し、利用者と良好な関係が築けていけるよう全員で取り組んでいる。スタッフ勉強会を開き、虐待について考え、スタッフ全員が周知するよう努める。日々の業務の中でインシデントを発見報告、分析を行い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度についての知識の習得は、職員研修を行い、制度を利用されている入居者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、施設長・看護師・ケアマネジャー等で十分に時間をとり説明を行い、理解・納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	受付に、自由に意見や要望をいただけるような「苦情受付」を用意し、又職員からの毎月のお便利にもご家族様からご意見を頂くようにし運営に反映させている。	面会時や運営推進会議、書面など、さまざまな方法で意見や思いを聞かれています。ホームに苦情箱を設置し、意見が言いやすい環境を整えておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議に於いては、本社より社長・統括の出席を仰ぎ、職員の要望や意見が直接届くように配慮している。また法人全体の介護会議などでも各事業所間の意見交換を密に行っている。	管理者は、日頃から職員の気づきや意見に耳を傾け、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに取り組まれています。法人代表、管理者を交えたスタッフ会議では、直接現場職員の意見や提案を聞き、法人全体で反映に向けて取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月始めには個人の勤務希望を配慮し、次回の勤務表に100%反映している。又、スタッフ会議においての職員の意見を実行にうつし、やる気や向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の必要とする研修を受講できるように配慮し、スキルアップを目指している。また、外部研修参加は積極的に促し、各施設の職員に伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修会に参加することにより同業者同士の交流を積極的に行ったり、区のCMの勉強会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前又は入所時に本人様と面談し、本人の思いをお聞きし、意思に添える支援をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前、又入所時家族様と面談を行い、苑の生活に対する要望をお聞きし、不安に思っておられないようにコミュニケーションを密に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前・入所時に面談し、本人様の認知等の状況を正確に把握し何が必要か見極め、総合的に考えサービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は日常生活で食事作り、洗濯たみ、そうじ等利用者様が出来ることは声かけし一緒に行っている。庭の菜園、花つくりは教えて頂く事も多くあり、職員との関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員からのお便りで日常生活の様子、毎月の行事案内など郵送し、こまめな連絡をとり家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	県外のなかなか会えない友人と手紙のやりとりをされたり、遠くの古い友人と電話でお話されている。	入居者が慣れ親しんだ場や馴染みの人との再会など、家族の協力を得ながら継続できるよう支援されています。墓参りや買い物、自宅に帰る入居者もおおり、関係が途切れない支援に努めておられます。	
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者様同士が言葉は少なくても穏やかな表情で仲良く過ごされる場面も見られる。又、会話が弾むような雰囲気作りやレク活動を職員が支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談をうけ少しでもお力になれるように努力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時に本人の意向を確認し、又日常生活や本人との会話の中から本人の真意を把握するようにしている。	日常生活の中で、これまでの生活歴や人間関係を知ることが多く、得た情報をケアに活かせるよう努力されています。意思表示の難しい人は、職員が寄り添い声かけするなど、思いの把握や安心に繋がる支援に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用い、入所前までの日常生活はどのようなだったか等ご家族、本人にお聞きし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化している利用者様の身体、生活状況をその都度介護日誌に記入し全職員が把握できるように努めている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議にてご本人様・ご家族様・介護職員・ナースとともに検討し、その内容をケアマネージャーがまとめ、ご本人様のADLと意向に即したケアプランを作成している。	6か月ごとにモニタリングを実施し、年1回、計画の見直しを行われています。担当者会議に、全職員、本人、家族が参加し、気づきや変化の説明、意見交換を行っておられます。本人の現状に即した計画の作成となるよう取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ナース、介護職員、CMがそれぞれが利用者様の状況を個別に記入している。毎朝朝礼に気づきを報告し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常にご利用者様の思いに耳を傾け、状況に応じてサービスを活用して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の公民館で活動されているボランティアの方々に来苑して頂き定期的に絵手紙教室を開催している。また、入居者様による苑のダンボール提供活動は子供会の運営費に繋がっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に苑の協力医院の説明を行うと同時に、今迄のなじみのかかりつけ医を選ばれることも自由である旨説明している。又協力医とは、24時間連絡がとれるよう緊急時の対応も行っている。	従来のかかりつけ医と協力医療機関の受診を支援されています。通院は、家族と職員が協力し合いながら、医療情報の共有に努めておられます。また、協力医療機関による月2回の往診や、夜間の急変時の協力体制について連携をとっておられます。	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	少しの変化も看護師と連絡をとるような体制が整っており、早期発見・治療に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は家族、病院と連絡をとり、利用者様のADLや体調面の情報を得ている。又、入院先の医療連携室の相談員からも定期的に連絡が入り、連携を強化している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に契約内容として重度化や終末期に対しての話し合いを行っている。必要時、入居者様・主治医・苑・ご家族との話し合いを行っている。	これまでにホームで看取りを行った事例はありませんが、看取り指針に沿って、できる限りの支援を行う方針を持たれています。また、法人が運営する他の事業所の事例や経験を職員全体で共有し、チームとして取り組む準備を整えておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、いつでもどの職員でも急変時に対応できるように苑内研修を実施し対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策マニュアルを作成すると共に全職員に周知を図っている。避難訓練は昼間の避難訓練はもちろん、夜間は夜勤者全員が行うよう毎月5日～9日に設定し周知している。佐伯消防署よりスモークマシーンを使った煙体験も行い、火災時の非難方法を全職員が身につけている。	自主訓練を積極的に実施し、毎回、課題と改善点を話し合われています。また、繰り返し訓練を行うことで、いざという場合にも適切な判断で避難誘導できるよう取り組まれています。現時点では、訓練に地域住民の参加はありませんが、運営推進会議などで説明を行い、協力体制が築けるよう努力されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーや個人の人格を尊重したケアに努め、利用者様のプライドを傷つけないように、笑顔で真心のこもった言葉かけを行っている。又、日々の業務の中で職員同士で注意しあえるように努めている。	職員は、入居者の顔を見ながら穏やかに声かけをすることを徹底されています。呼び名は一人ひとりの人格を尊重した対応に努めておられます。職員は笑顔で接することを心がけながら、その人の今を大切に笑顔を引き出す支援に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と二人だけになる入浴時、くつろいだ気持ちになられ自然にご本人の思いをお聞きできる機会になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各利用者様の生活リズムを大事にし、起床・食事・就寝時間等本人の希望に添って支援している。外出や散歩の希望は出来る限り尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧をされたり、好みの服を選んで頂いたり、訪問理美容に来苑して頂きおしゃれをされる支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様に召し上がって頂いた好評メニューを献立に取り入れ、下準備なども一緒に行い、食事作りの達成感を味わって頂いている。片付けの一つお盆拭き等は人気で平等に順番制でして頂いている。	食事は、手作りで温かみのある家庭料理を提供されています。メニュー内容は、管理栄養士による評価や助言を受けながら、美味しく健康に配慮した食事を職員と入居者が一緒に調理されています。手作りの弁当を持って外出することもあり、食べることが楽しみに繋がる支援にも取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	高齢者は脱水になりやすい為特に気をつけており、1日の必要摂取量1500ml前後を設定している。又、運営推進会議において管理栄養士に食事に関するアドバイス、指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	スタッフが毎食後ケアを支援している。本人の力だけでは口腔ケアをする事ができない利用者様にはお手伝いをし、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握することにより、トイレ誘導を効率的に行い、リハビリパンツから布パンツへの自立支援を行っている。	トイレは、車椅子でも十分なスペースが確保され、手すりが設置されています。排尿チェック表をもとに、一人ひとりの排泄パターンに合わせながら声かけ誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝食会にはヨーグルトを必ず取り入れている。又、苑内歩行、ラジオ体操を取り入れ日々排便を促すように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	少なくとも週2回以上は入浴して頂き、入浴の声かけに気分が乗らずお断りされる時は日を変えるように工夫し、月～土いつでも入浴できるように配慮している。	風呂好きな人やあまり好まない人などさまざまですが、一人ひとりの習慣を尊重しながら、週2回の入浴を提供されています。入浴での職員との会話を楽しみにする入居者もおられます。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一律に睡眠時間を決めるのではなく、それぞれの利用者にあった生活時間に応じて対応している。また、楽な姿勢で休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	与薬に関しては3重のチェックを行い誤薬のないよう努めている。1人ひとりの薬は薬局から提供されるくすりの説明書をいつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	センター方式を用い、本人の暮らしの情報や日々の生活の会話の中から、好み・役割・楽しみ事を把握し、笑顔で楽しく生活できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望により、外出・散歩は1人ひとりの体調に応じて行っている。行事として近くの店へ食事に出かけ皆様に楽しんで頂いている。	庭を開放し、気分転換ができる場になっています。職員の手作り弁当を持っての花見や、墓参り、買い物など、一人ひとりの要望に合わせて出かけられる支援をされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族の希望があれば、小銭程度の自己管理をされ、苑近くのお店に職員付き添いにて買い物に出掛けている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人より希望あれば、苑の電話を使用して頂き、家族様といつでも連絡がとれるようスタッフ全員支援している。手紙もご本人が書かれ友人等に出されている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はすべてバリアフリーとし、各ユニットより中庭への自由な出入りでき、季節の花など植え、ゆっくりとくつろいでいただける空間づくりをしている。	入居者は、温かい雰囲気のある共用空間で、思い思いのペースで過ごされています。リビングでは、台所で調理する包丁の音や料理の匂いを感じることができ、生活感ある環境が整えられています。観葉植物や季節の花に囲まれ、自宅と変わらない雰囲気づくりに工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	本人の意思を尊重し、居室で1人ゆっくり過ごされたい時はその思いに添い、対応している。気の合う利用者様同士が談話を楽しむ場所も配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前のなじみの家具や小物、家族写真等持参して頂き、居心地の良い場所として過ごして頂くよう努めている。	居室には、ベッド、ローチェスト、エアコンが完備されています。入居者は、ソファや手押し車、テーブルなど、暮らしに必要な物を持ち込まれています。また、生花や家族写真を飾り、落ち着いた過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	独歩の方・車椅子の方が歩行しやすいように安全に配慮した設計になっている。又、出来るだけ死角をなくし、職員が見守りの中安全に移動できるよう支援している。		

V アウトカム項目(東ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(西ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時の研修で職員全員で作った理念を、毎朝朝礼で唱和し、常に意識し、日々の介護にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して、職員と利用者がともに町内清掃に参加したり、相互の行事(保育園の運動会・町内の祭り・ぜんざい大会等)に積極的に参加しながら交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	インターンシップの受入れを行い、又運営推進会議には勉強会をもうけ地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域の方やご家族から活発な意見が出され、地域行事への積極的参加や施設サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者に運営推進会議の報告をし、協力関係を密にできるよう取り組んでいる。		
		○身体拘束をしないケアの実践	身体拘束に関する研修を行い、拘束行為が人権侵害にあたることを職員に周知して		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	又、毎月「虐待の芽チェックシート」を活用し、職員全員が日々のケアを振り返っている。玄関の施錠については、ヒヤリハットの事案があったため、入居者様の安全を考慮し、やむを得ず施錠している。中庭への扉については開放し、自由に出入して頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が精神的に安定した状態で業務が遂行できるよう労働環境に配慮し、利用者と良好な関係が築けていけるよう全員で取り組んでいる。スタッフ勉強会を開き、虐待について考え、スタッフ全員が周知するよう努める。日々の業務の中でインシデントを発見報告、分析を行い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度についての知識の習得は、職員研修を行い、制度を利用されている入居者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、施設長・看護師・ケアマネジャー等で十分に時間をとり説明を行い、理解・納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	受付に、自由に意見や要望をいただけるような「苦情受付」を用意し、又職員からの毎月のお便利にもご家族様からご意見を頂くようにし運営に反映させている。		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議に於いては、本社より社長・統括の出席を仰ぎ、職員の要望や意見が直接届くように配慮している。また法人全体の介護会議などでも各事業所間の意見交換を密に行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月始めには個人の勤務希望を配慮し、次回の勤務表に100%反映している。又、スタッフ会議においての職員の意見を実行にうつし、やる気や向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の必要とする研修を受講できるように配慮し、スキルアップを目指している。また、外部研修参加は積極的に促し、各施設の職員に伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修会に参加することにより同業者同士の交流を積極的に行ったり、区のCMの勉強会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前又は入所時に本人様と面談し、本人の思いをお聞きし、意思に添える支援をさせて頂いている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前、又入所時家族様と面談を行い、苑の生活に対する要望をお聞きし、不安に思っておられないようにコミュニケーションを密に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前・入所時に面談し、本人様の認知等の状況を正確に把握し何が必要か見極め、総合的に考えサービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は日常生活で食事作り、洗濯たみ、そうじ等利用者様が出来ることは声かけし一緒に行っている。庭の菜園、花づくりは教えて頂く事も多くあり、職員との関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員からのお便りで日常生活の様子、毎月の行事案内など郵送し、こまめな連絡をとり家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	県外のなかなか会えない友人と手紙のやりとりをされたり、遠くの古い友人と電話でお話されている。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者様同士が言葉は少なくても穏やかな表情で仲良く過ごされる場面も見られる。又、会話が弾むような雰囲気作りやレク活動を職員が支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談をうけ少しでもお力になれるように努力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時に本人の意向を確認し、又日常生活や本人との会話の中から本人の真意を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用い、入所前までの日常生活はどのようなだったか等ご家族、本人にお聞きし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化している利用者様の身体、生活状況をその都度介護日誌に記入し全職員が把握できるように努めている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング	利用者会議にて本人様、ご家族様、介護		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者意識にてご本人様・ご家族様・介護職員・ナースとともに検討し、その内容をケアマネージャーがまとめ、ご本人様のADLと意向に即したケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ナース、介護職員、CMがそれぞれが利用者様の状況を個別に記入している。毎朝朝礼に気づきを報告し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常にご利用者様の思いに耳を傾け、状況に応じてサービスを活用して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の公民館で活動されているボランティアの方々に来苑して頂き定期的に絵手紙教室を開催している。また、入居者様による苑のダンボール提供活動は子供会の運営費に繋がっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に苑の協力医院の説明を行うと同時に、今迄のなじみのかかりつけ医を選ばれることも自由である旨説明している。又協力医とは、24時間連絡がとれるよう緊急時の対応も行っている。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	少しの変化も看護師と連絡をとるような体制が整っており、早期発見・治療に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は家族、病院と連絡をとり、利用者様のADLや体調面の情報を得ている。又、入院先の医療連携室の相談員からも定期的に連絡が入り、連携を強化している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に契約内容として重度化や終末期に対しての話をしている。必要時、入居者様・主治医・苑・ご家族との話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、いつでもどの職員でも急変時に対応できるように苑内研修を実施し対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策マニュアルを作成すると共に全職員に周知を図っている。避難訓練は昼間の避難訓練はもちろん、夜間は夜勤者全員が行うよう毎月5日～9日に設定し周知している。佐伯消防署よりスモークマシーンを使った煙体験も行い、火災時の非難方法を全職員が身につけている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保	プライバシーや個人の人格を尊重したケ		
--	--	------------------------	--------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	アに努め、利用者様のプライドを傷つけることのないように、笑顔で真心のこもった言葉かけを行っている。又、日々の業務の中で職員同士で注意しあえるように努めている。		
37		○利用者希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と二人だけになる入浴時、くつろいだ気持ちになられ自然にご本人の思いをお聞きできる機会になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各利用者様の生活リズムを大事にし、起床・食事・就寝時間等本人の希望に添って支援している。外出や散歩の希望は出来る限り尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧をされたり、好みの服を選んで頂いたり、訪問理美容に来苑して頂きおしゃれをされる支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様に召し上がって頂いた好評メニューを献立に取り入れ、下準備なども一緒に行い、食事作りの達成感を味わって頂いている。片付けの一つお盆拭き等は人気で平等に順番制でして頂いている。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	高齢者は脱水になりやすい為特に気をつけており、1日の必要摂取量1500ml前後を設定している。又、運営推進会議において管理栄養士に食事に関するアドバイス、指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	スタッフが毎食後ケアを支援している。本人の力だけでは口腔ケアをする事ができない利用者様にはお手伝いをし、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握することにより、トイレ誘導を効率的に行い、リハビリパンツから布パンツへの自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝食会にはヨーグルトを必ず取り入れている。又、苑内歩行、ラジオ体操を取り入れ日々排便を促すように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	少なくとも週2回以上は入浴して頂き、入浴の声かけに気分が乗らずお断りされる時は日を変えるように工夫し、月～土いつでも入浴できるように配慮している。		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一律に睡眠時間を決めるのではなく、それぞれの利用者にあった生活時間に応じて対応している。また、楽な姿勢で休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	与薬に関しては3重のチェックを行い誤薬のないよう努めている。1人ひとりの薬は薬局から提供されるくすりの説明書をいつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	センター方式を用い、本人の暮らしの情報や日々の生活の会話の中から、好み・役割・楽しみ事を把握し、笑顔で楽しく生活できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望により、外出・散歩は1人ひとりの体調に応じて行っている。行事として近くの店へ食事に出かけ皆様に楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族の希望があれば、小銭程度の自己管理をされ、苑近くのお店に職員付き添いにて買い物に出掛けている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人より希望あれば、苑の電話を使用して頂き、家族様といつでも連絡がとれるようスタッフ全員支援している。手紙もご本人が書かれ友人等に出されている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はすべてバリアフリーとし、各ユニットより中庭への自由な出入りでき、季節の花など植え、ゆっくりとくつろいでいただける空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	本人の意思を尊重し、居室で1人ゆっくり過ごされたい時はその思いに添い、対応している。気の合う利用者様同士が談話を楽しむ場所も配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前のなじみの家具や小物、家族写真等持参して頂き、居心地の良い場所として過ごして頂くよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	独歩の方・車椅子の方が歩行しやすいように安全に配慮した設計になっている。又、出来るだけ死角をなくし、職員が見守りの中安全に移動できるよう支援している。		

V アウトカム項目(西ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑五日市八幡

作成日 平成 26 年 7 月 7 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	38	外出, 帰宅願望のケアの取り組み。	外出, 帰宅願望も本人の表現手段の一つとして理解し, その心を大切にした支援。	本人にとって心地よい空間づくりになるよう, 不穏時は寄り添い行動を共にする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。